

## 第4回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 （議事録要旨）

日時： 平成28年2月4日（木） 午後7時～8時30分

場所： 中央区役所 8階 大会議室

議事次第：

1 開 会

2 議 題

(1) アンケート分析結果にみる社会的孤立の傾向

(2) 意見交換

テーマ

『社会的孤立を防ぎ、交流を推進するためのアプローチ』

(3) その他

3 閉 会

<配布資料>

資料1 中央区日常生活の状況に関するアンケート調査 クロス集計の結果（抜粋）

資料2 川村会長によるアンケート分析結果

出席者【委員】

川村 岳人	健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授
高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村 和代	民生委員（京橋地域）
平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩 絹子	民生委員（月島地域）
川端 武二	町会役員（京橋地域）
安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
平林 治樹	企画部長
黒川 眞	福祉保健部長
長嶋 育夫	高齢者施策推進室長

欠席者【委員】

鹿島 新吾	町会役員（月島地域）
新治 満	区民部長

(敬称略：順不同)

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第4回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。
2 議題 (1) アンケート分析結果にみる社会的孤立の傾向	会長	議事に入ります。事務局からお願いします。
	高齢者福祉課長	配布資料の確認。
	高齢者福祉課長	中央区日常生活の状況に関するアンケート調査 クロス集計の結果(抜粋)(資料1)説明。
	会長	<p>川村会長によるアンケート分析結果(資料2)説明。</p> <p>孤立をされている方の傾向を検討した。色がついているところは統計的に関連性が認められるところで、例えば「病気の世話」は、男性は病気の時に頼める人がいないというリスクが1.295倍、女性よりも高いということ。男性の場合ほどの項目に関してもリスクが高い。経済的に困窮をされている方ほど孤立に陥るリスクが非常に高い。健康状態が悪いと答えている方も各項目において孤立に陥りやすい。ひとり暮らしをされている方が中央区においては非常に孤立のリスクが高い。他の自治体では、「高齢者夫婦のみ世帯」や「高齢者とその中年の子どもの2人世帯」なども孤立のリスクが高いのだが、中央区ではほとんど関係がない。</p> <p>居住年数5年未満はどの項目にも該当していない。事務局からの説明で、5年未満の方は近所づきあいが非常に少ないということがあったかと思うが、これをみると、孤立はしていない。おそらく中央区に越してこられたばかりの方は、近所づきあいはしていないが、近所以外での人間関係は多く持っている方が多く、孤立をしているわけではないということが浮かび上がってくる。</p> <p>前回の閉じこもりの分析では、一戸建の方のほうがむしろ外出の頻度は全体的に少ないという結果が出ていたが、今回は逆に、集合住宅に住んでいる方のほうがいくつかの項目において孤立をする傾向があることがわかった。</p> <p>集合住宅に住んでいる方の中で、高い階に住んでいらっしゃる方を分析したが、これに関してはほとんど関連がみられなかった。一戸建か、集合住宅かという違いが孤立に関連しているということがここからは読み取れる。</p>

(2) 意見交換  
テーマ『社会的孤立を  
防ぎ交流を推進するた  
めのアプローチ』

会長

また、外出頻度が週1回以下、週数回以上で比べたが、会話以外の項目ではほとんど関連はみられなかった。

まとめると、暮らし向きが苦しい方、健康状態が悪い方は孤立をする傾向がある。中央区のひとつの特徴と思うが、男性のひとり暮らしの方がどうも孤立しやすい状況にある。集合住宅の方も孤立しやすい。ただし、階数が何階かということはあまり関係がなさそうだ。

次に、議題2、テーマ『社会的孤立を防ぎ、交流を推進するためのアプローチ』に移る。

まず代表の4名の委員に日頃の活動内容、活動の中で気づいたことなどについて詳しくご報告いただき、そのあと、自由に意見交換をしていただく。社会的孤立をしている方への対応策などの糸口を見つきたい。

委員

身近な場所として、月1回、町内の掃除をやっている。マンションの女性が大勢出てくれ、それがきっかけで輪が広がり、食事会をしたり、個人的にもお付き合いができるようになってきた。

ふれあい福祉委員会の活動として1月の誕生日のお花プレゼントは、初めてマンションに住む親御さんたちと行った。高齢者、子ども、お母さん、私たち委員みんなが顔見知りになり、地域の輪が広がった。社協、児童館の協力も得られた。

待っているだけでなく、こちらから呼びかけることで、妻に先立たれたひとり暮らしの男性が積極的に挨拶をしたり、いきいき館やサークル活動にも出掛けるようになってくれた。役割としていきいき館の月間予定表を配っている。自分に関心を持ってくれることが高齢者にとって大切なことと感じた。

見守りやふれあい福祉委員会のお世話を地域でやっていることが自分たちの生きがいでもある。

会長

身近な場所、こちらから呼びかける、役割、生きがい、4つのキーワードに基づいてお話をしていただいた。

では、2人目の委員の方、お願いします。

委員

町として気をつけているのは、高齢者クラブ、ふれあい福祉委員会の方たちとの交流。町会とすごく親密な関係になっている。

活動費なども町会で支援しており、活動の活発化をお願いしている。

女性は高齢になって夫が亡くなくても、しばらくたつと非常に明るく活発に、閉じこもることなく、町へ出ている。いろんな役をやっていただいております、そういう方がいないと町会の行事が成り立たないという面がある。

男性は閉じこもりがちになる。マンションに越してきた方はなかなか町に溶け込まない。閉じこもりに目を向けたほうがよい。私どもの町会では、そういった人の家に行って月に一度くらい飲み会をやったり、ふれあい福祉委員会の活動も行っている。こういった町会とのつながりが非常に大事ではないか。サークル活動もいいが、やはり町の人とのつながりを深めてほしい。おせっかい役がいるとうまくいく。

新しく越してきた方はなかなか地域のつきあいに入っていけないということがある。長く住んでいる人たちが溶け込みやすい雰囲気をつくるのが大事ではないか。

会長

おせっかいと思われても働きかける。その人の家に行って飲み会をするという、アウトリーチはありかなと思った。

では、次の委員の方、お願いします。

委員

アンケート調査で、活動に参加しない理由として、きっかけがない、興味がないという方が多く見受けられた。区報を見て活動を知ったとしても生の声で誘われなるとなかなか踏み込めないのではないか。

ほがらかサロンでは参加者の得意なことを生かしてみんなで活動したり、リーダーをやっていただいたりすることで生きがい、役割を感じるのではないか。利用者が分担して役割を決め、みんなで作っているという意識がある。お手伝いではなく、みんなでサロンを盛り上げている。

ひとり暮らしの方が亡くなられていたのを近所の方が見つけてくださったが、孤独死だったかというところではなく、その方が生き方として自分はこうありたいと思っていたのだったら、それはそれでその人の終末をきちんと自分で終えたのではないか。

勝どきの公園でお年寄りが4～5人おしゃべりをしている。その人たちにとっては、そこが自分のサロン、集まる場所だと思う。

そこに行けばだれかがいて、楽しくおしゃべりをして帰る。小さくていい、みんながだれでも集まれる、そんな場所がたくさんできたらいいと思った。

会長

小さくも、かしこまらずに、だれもが出入りすることができる居場所が地域の中に多様にあればいいというお話をいただいた。では、最後の方、お願いします。

委員

75歳くらいの方が放送大学で勉強して資格をとった成果を生かし、特別養護老人ホームで音楽療法のボランティアをしたり、社会教育会館で睡眠学の講演会を計画している。こういった年配の方がいろいろな形で社会に貢献することはありだと思った。

中央区には福祉のサービスがたくさんあるが、高齢者に情報を伝え切れているか疑問を持っている。情報を伝えることにもっと力を注がなければいけないのではないか。

古くから住んでいる方はがちりと組んで町会活動をやっているが、自治会の加入率は3割にいかない。地域の自治が崩壊している。もう一度復興させて、活性化させなければ、孤立防止、生きがい推進につながらないのではないか。

提案だが、この懇談会の結論を伝えるフォーラムみたいなものを作って、さまざまな人にきちんと伝えていくことをやったかどうか。

もうひとつの提案は、例えば、中央区がメーカー、商店、デパートなどとアプリを一緒に開発してはどうか。ICT(情報通信技術)を使いこなせるお年寄りもどんどん増えてくると思う。皆さんの持っている情報、町会のニュース、そんなものを送れるような、タブレットなら可能になるのではないか。

会長

みなさん、ありがとうございました。ここからは意見交換ということで、自由にご発言いただきたい。

委員

4名の方のお話は理想的だが、うちの地区にはあてはまる気がしない。同じことをみんなでわいわいやるのが果たして幸せなのか。皆でやることはいいことだが、もう少し元気なうちに、自分の終末めがけて何かやるべきだと感じている。

委員	<p>地区による違いというより、個人の歴史とか、あるいは建物の上のほうに住んでいるか、地べたに住んでいるか、というのはあると思う。マンションでもつながりが持てるような活動をひとつひとつやらなければ、地域は崩壊してしまう。</p>
委員	<p>最近できたマンションでも自治会がすごくしっかりしているところがある。朝のラジオ体操や小学校入学のお祝いなど、マンション全体が盛り上がっている例がある。自治会のあり方、やり方で結構変わってくるのではないか。</p>
委員	<p>ふれあい福祉委員会で年間3回は訪問していると、自然に親しみがわいて、道で会っても挨拶を交わせる。接することが一番大事ではないか。</p>
委員	<p>行政が仲立ちして管理組合と地域の人たちの話し合いをする方法はないか。また、地域性より個人的な差があるのではないか。</p>
会長	<p>みんなが同じことをやるのはどうなのかという話があった。高齢者も多様化しており、一緒にみることが今まで以上に難しい面があるのではないか。参加するスキルがある方も、そうでない方もいる。これまでの経験や考えもあって、みんなのいるところになかなか来られない方を、どのように孤立させないようにするか、考えていく必要がある。今ある場に参加してもらうのではなく、その人がしたいことの手助けをすること、一度つながった手を離さない、その方にどんな強みがあるのか、どんな関心をお持ちなのか、それが既存の地域の居場所とマッチすればいいが、必ずしもそうではない場合もある。そのときはその方が開拓者になって、またひとつ地域の中に居場所をつくっていくことができれば、多様な居場所、孤立に対する網の目がより細かくなっていくのではないか。</p> <p>いくつかのお話の中で出てきた論点をすり合わせると、ある居場所にきていただくだけでなく、持っている強みを地域の中で発揮したいと感じている非常にアクティブな方、アグレッシブな方が増えてくるときに地域が何をできるだろうかという視点も大事なのではないか。</p>

委員	<p>ご自分の力を発揮できる方が増えるとよい。行政に頼らず、みんなですべてをどうしようか考える。そこをもっと伸ばしていきたい。</p>
委員	<p>例えば、子どもの虐待、親子間のいさかい、介護など、いろいろな孤立の状態がある。地域で孤立に対する目、地域で良くしていこうという雰囲気、機運があれば、高齢者の孤立も防げる。</p> <p>居場所というのは居心地がいい場所だと思う。それが家の中であっても、ひとり暮らしでも居心地が良ければ、孤立ではないのだろうが、夫婦二人暮らしでいさかいがあったら、居心地が良くないので互いに孤立するかたちになる。全体の視野を持つのも必要と思う。</p>
委員	<p>子どもの孤立をなくそうと、20代、30代の人たちが、「子どもごはん」という催しを立ち上げた。企業の独身寮でその企業の人たち、子どもの活動をしている人たち、お年寄りも参加して、一緒にやったらいいと話している。</p>
会長	<p>多世代交流をもう少し視野に入れる、高齢者の孤立防止を通してその先にどういった地域をつくっていくかというビジョンを展望する、そういった視点が必要ではないかというご指摘だ。</p>
委員	<p>我々が若い頃は縦のつながりだった。消防団に入るのも、町会役員もみんな先輩の勧め。今は、若い人がどんどん入ってきており、同じ年代の横のつながりで、友達から友達へと広がっているので、それほど心配するものではないと思っている。</p>
委員	<p>私は30代で働いているが、もし自分が高齢者になったときに、住んでいる地域の人とわからない。地域の情報を知らないと思う。今マンションで暮らしているが、すれ違っても挨拶をするような関係性はない。単純なことかもしれないが、挨拶をする、話をする、顔ぐらいいは知っているというところから入っていくのが大事と思う。</p>
委員	<p>今回のアンケート調査の結果の中に、参加してみたい地域活動がいろいろ書かれていたが、かなりいきいき館でやっている。近</p>

	<p>くの児童館、保育園の園児たちとの交流もしている。もっといきいき館の情報を伝えていく努力が重要と思う。</p>
委員	<p>シニアの視点で新聞をつくるとか、そんなアプローチも考えてはどうか。</p>
委員	<p>個々に動くのではなく、連携を取ってアプローチしていくのが重要ではないか。</p>
委員	<p>高齢者クラブではこれまでの経験を活かして活動してほしいという考えでやっている。今後も町会、民生委員など、いろいろな方の協力がほしい。</p>
委員	<p>人見知りをする方が若干いらっしゃる。声をかけたり、いろいろ模索しながらやっておき、高齢者クラブや自治会の活動に参加してみたら考えていたのと全然違っていただと喜ばれた。</p> <p>見守りは月に2～3回の訪問を続けていく。コミュニティづくりをやったほうがよいということで、各自治会、UR、公社、都営で、毎週1回公園のお掃除をすることになった。</p>
会長	<p>副会長に議論を振り返ってコメントをいただきたい。</p>
副会長	<p>待っているだけではなくて、子どもさんやその親御さんたちと一緒にこちらから出向く取り組みがあった。新しく引っ越してきた方がコミュニティに入りにくくなっているあたりは変えていかなければいけないという投げかけがあった。</p> <p>チラシ、掲示があっても、生の声で誘うところを大事にしておく必要があると感じた。</p> <p>いろんな情報があるが、果たしてそれが届いているのか、どうやったら伝わるのかを考えていく必要があると思った。</p> <p>個々のいろいろな生き方があり、歴史があるので、おせっかいをすることが本当にいいのだろうかという投げかけがあり、考えさせられたが、その方々も自分に関心を持ってほしいというところは変わらないと思う。その方々の強みを生かせる場、機会を考えていく必要があると思う。</p> <p>高齢者だけではなく、もう少し地域全体を広い視野でみていく</p>

### 3 閉会

会長

必要性を気づかされた。

たくさんのご意見ありがとうございました。以上で本日の懇談会は終了とします。